

1. 令和4年度報告書から抜粋

活動区分とねらい (重点的なねらいを○囲む。最大でも2つ)	Ⅰ「確かな学力」 Ⅱ「健やかな体」 Ⅲ「豊かな心」 Ⅳ「生活習慣の確立など」	A「学ぶ意欲」 B「自尊感情」 C「困難に立ち向かう心」 D「体力」
----------------------------------	--	------------------------------------

取組の概要	<p>1. 小さいサイクル (タブレットドリルeライブラリを活用した朝学習：紙媒体での朝学習をタブレットを活用したドリル学習の取組とした。)</p> <p>(1) 活動の内容・方法</p> <p>【挑む活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1教科5日間(月～金)で実施。月～木曜日は各自のペースでドリル、金曜日は確認テスト。 ・生徒は、個別にドリルのレベル(「基本」「標準」「挑戦」)を選択し、解答。 *「基本」「標準」までは必須。「挑戦」はオプション。分からない時は「ヒント」をタップして自己解決。 <p>【振り返る活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は金曜日の確認テスト終了時に、eライブラリの機能を活用して振り返りを入力し、教科担当宛に送信。 ・教科担当からは、個別に振り返りに対するコメントを送信。 *生徒の振り返りと教師のコメントは個別にログとして残る。 <p>【目標設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・取組開始時に、確認テストでの全問正解を目標にするよう教師から指示。 ・生徒は、金曜日の振り返り入力時に、次の取組に向けた目標を入力。 <p>(2) 取組の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、個別に自分のペースで取り組める。また、CD層の生徒も自分で取り組める。 ・教師は、D層のサポートに集中しやすい。 <p>2. 大きいサイクル (定期考査に向けた自主学習の取組：学習計画表を紙媒体からデジタルに移行した。学年ごとだった計画表を全校で統一した。)</p> <p>(1) 活動の内容・方法</p> <p>【挑む活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、自身で立てた計画(スプレッドシート)に沿って試験勉強。毎日実施状況をシートに入力。 ・教師は、毎日入力を確認。 <p>【振り返る活動】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は、考査結果と振り返りをシートに入力。 ・教師は、振り返りに対するコメントを入力。 <p>【目標設定】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒は考査の振り返りと教師からのコメントを手元に置き、次回考査に向けて各教科の目標点数と学習方法についての改善点等について入力。 <p>(2) 取組の効果</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文字を書くことが苦手な生徒にとって計画を立てやすい。 ・生徒と教員が学習計画表を共有しているため、教師はリアルタイムに学習の様子を確認してコメントできる。また、学習ログとして確実に残る。
-------	--

アンケート結果	※学ぶごとに挑み続ける子どもを育む鍛ほめアンケート結果を番号ごとに全体の平均値を記入する。																										
	項目	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	平均点
	第1回目	3.1	3.2	3.3	3.3	3.3	3.4	3.0	2.6	3.0	2.7	3.3	2.7	3.0	3.0	3.0	2.9	3.0	2.7	3.2	3.5	3.5	3.2	3.0	3.0	3.2	3.09
第2回目	3.1	3.3	3.3	3.3	3.2	3.5	2.9	2.8	3.1	2.8	3.4	2.9	3.1	3.0	3.0	2.9	2.9	2.7	3.2	3.5	3.4	3.3	3.0	3.0	3.3	3.12	

成果(◇)と課題(◆)	<p>◇「鍛ほめ」アンケートにおいて、第1回目(5/23実施)と比べて第2回目(2/10実施)の平均値が全体で0.03ポイントではあるが上昇した。また、本校で課題と捉えた4項目の内、次の3項目が上昇した。10月に校内研修を実施し、第1回目のアンケート結果からうかがえた課題を共有して取組を進めた成果と考えられる。特に、「小さいサイクル」「大きいサイクル」ともに、各担任や教科担当が、生徒の学習状況についてコメントし、価値付けや助言を地道に行ったことは成果の要因の一つであると考えられる。年度末に成果として共有し、次年度の取組に向けた教員のモチベーションアップへつなげていきたい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・8「自分には、よいところがあると思う」(2.6→2.8) ・10「難しいことでも、失敗を恐れなくて挑戦していると思う」(2.7→2.8) ・12「将来の夢や目標を持っている」(2.7→2.9) <p>◇「持続可能な取組とするために、トップダウンではなく、研究推進委員会を中心に推進する」体制が機能した。特に、各学年の良い点や課題を出し合いながら協議することを大切にすることで、研究推進委員の主体性が高まったと考えられる。次年度も同様の方針で推進していく。</p> <p>◆「鍛ほめ」アンケートにおいて、本校で課題と捉えた4項目の内、家庭学習に関わる項目の伸びが見られない。「大きいサイクル」については、ICT化を図ったことで、サイクルが学校全体で回り出したと言えるが、そのサイクルにおける家庭学習の質は高まっているとは言い難いのが教師側の実感でもある。年度末に研究推進委員会を中心に課題を洗い出すとともに、改善の方向性について検討し、家庭学習の在り方について抜本的に見直していきたい。その際、家庭学習として予習をさせ、本時の授業につなげていく方向性についても十分検討し、試行していきたいようにする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・18「いろいろなことが知りたいので、学校の勉強だけでなく、家でも勉強している」(2.7→2.7) <p>◆2月に実施した「未来への一歩」の正答率が出された段階で、本校の取組の成果と課題について検証し、次年度の取組につなげていく。</p>
-------------	--

2. 令和5年度の改善の方向性

改善の(○)方向性	<p>1. 家庭学習の時間を確保し、その質が高まるようにする。</p> <p>○宿題の在り方(内容、教科間のバランス、自学ノートとの兼ね合い等)について研究推進委員会で検討を進める。</p> <p>○主体的な学びにつなげるための「予習」型の宿題を推進する。既に実施している教科があるので、研究推進委員会で授業者への聞き取りや、全体での共有を行っていく。</p> <p>2. 「大きなサイクル」のサイクル同士がつながるようにする。</p> <p>○振り返りと次の目標設定が直結するように、中間考査の振り返りと期末の目標設定を同じ時間に行わせる。(1学期試行)</p> <p>3. eライブラリを活用した朝学習で「徹底」を図る方法を模索する。</p> <p>○金曜日の確認テスト「結果」(できるようになっているか)を教師側はもっと意識する(振り返りの記述内容に対して助言することに重きがおかれ、「結果」に意識が向いておらず、「徹底」が図れていなかった)。そして、「結果」を出せていない生徒に対する学習時の個別支援(誰が、誰を支援する)を明確にする。</p>
-----------	--